

ゼンセンOB友の会 結成の経緯

滋賀県・元全織同盟滋賀県支部長
元衆議院議員・西田 八郎

ゼンセンOB友の会（全織同盟＝当時こう言った）OB友の会が発足したそもそもの経緯は、昭和40年の参議院選挙で、全織同盟の組織内候補として、全国区から立候補された高山恒雄氏（当時副会長）の得票が確か60万票足らずで、50名中48位か49位で、本部で開票を見ていた者は、ハラハラドキドキしたものだったと聞かされたし、地方でも同様の状態であった。

そこで3年後の参議院選挙をどう戦うかと組織・政治の両部で論議することになったが、名案がないまま、その日の会議は終わり後日改めて検討することになった。

その後数日たち、

たまたま大阪に出向いていた私は、当時の組織部長の山口正義氏と、大阪支部長だった竹内文義氏から夕食に誘われ、食事をしながら、また選挙の話となった。電力や自動車が20ないし30万の組織で60万ないし70万の票を取るのに比べ、わが全織は40万の組織人員があるのだから、もっととれてもよさそうではないか、「なにか名案はないか」と言われて、提案というか問題提起したのが、「退職者の組織、所謂OB会を結成しては」どうだろうかと言うことであった。

当時の全織同盟

組織員数は約40万名弱であったが、内、女性が約60%を占めていて、またその半数以上が未成年であった。従って組織員数は40万あるからと言っても有権者は20万名足らずで、これを3倍に増やすことは並大抵ではない。そこで、かつては同じ職場で働き、気心も知れている仲間に呼びかけて、退職者の会というか、OB会として組織化すれば、かなりの人数が集まるのではないだろうか？

そして、それらの会員には選挙にも協力してもらおうと言うのはどうだろうか、と提起してみたところ、山口部長も竹内支部長も「それは良い」と言うことから始まったのが、OB会結成への第一歩であった。

それから中執で加入条件や対象者などについて論議が交わされたのち、現在の「OB友の会」組織化の議案が大会に提案されて正式に発足したというのがそのあらましである。（昭和43年のことである。）

その後、

単一組織にもOB会の結成が相次ぎ、全国組織はあまり伸びていないのが残念であるが、高齢化社会の中でOB会の活動は極めて重要になってくるので、ゼンセンの組織を挙げてOB会の組織拡大と活動に協力していただきたいと祈念しております。

（2007年2月2日記）

